

アライドテレシスが“普通のルーター”で解決策を提供 AndroidのVPN接続阻む2つの壁

AndroidでVPN接続するうえでは、実は乗り越えなければならない壁がある。AndroidのVPN接続における課題と、それをクリアする手段を低コストで提供するアライドテレシスのルーターを紹介する。 文 太田智晴(本誌)



アライドテレシス
マーケティング本部
第1プロダクトマー
ケティング部
杉山一郎氏

意外に知られていないことだが、AndroidのVPN機能には“癖”がある。そして、この癖を生かして商機を掴もうとしているルーターベンダーがいる。アライドテレシスである。

AndroidのVPN機能にはどんな癖があるのか。また、その癖がなぜアライドテレシスにとってチャンスとなるのか。順に説明していこう。

spモードでVPN接続できない!

“癖”とは書いたが、AndroidのVPN機能が特殊というわけではない。Androidが標準で実装しているVPNクライアントは(1)PPTP VPNと(2)L2TP + IPsec VPNの2つだが、いずれもスタンダードなVPN技術だ。

では、なぜ“癖”と言ったのか。

その理由の第一は、主として携帯電話事業者のネットワーク構成に起因している。PPTPだとVPN接続できないケースがあるのだ。

この課題は、NTTドコモのスマートフォン向けISPサービス「spモード」を利用している場合に生じる。従来の携帯電話メールアドレスを継続利用するため、spモードを使っているユーザーは企業でも多いが、spモードではPPTPでVPN接続できないのである。「spモードは、キャリアの網内でNATを実施しているが、PPTPではNAT越えができないため」とアライドテレシス・マーケティング本部第1プロダクトマーケティング部の杉

山一郎氏は解説する。

VPN接続するときだけ、spモードではなく「mopera」を利用するという手もあるが、いちいち切り替えるのは実用的ではないだろう。

また、杉山氏によれば、ドコモ以外のキャリアにおいても、NATによるアドレス変換を行っているケースはあるそうだ。さらに、自宅やホテルなどからWi-Fiルーター経由でVPN接続する場合にも、このNAT越えの問題に突き当たる。

一方、L2TP + IPsec VPNを利用すれば、NAT環境下でも正しくVPN

図表1 Androidの標準VPNクライアントでVPN接続を行う場合に直面する課題

